
殺人鬼と殺し屋

白神 龍茶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

殺人鬼と殺し屋

【Nコード】

N5879P

【作者名】

白神 龍茶

【あらすじ】

ある殺人鬼と、ある殺し屋のお話。
自分なりにまとめました。
初めての短編です。

ある殺人鬼は思いました。

“何故、彼はあんな顔も人を殺しているのだろう”と。

ある殺人鬼は聞きました。

「何故、泣きながら殺しているの？」と。

すると、泣きながらある殺し屋は答えました。

「自分はこれが仕事だから」と。

ある殺人鬼は聞きました。

「じゃあ、僕は何故泣いていないの？」と。

今度は涙を拭いながら殺し屋が言いました。

「それは、“好き”でやっているから」と。

仕事と好きは違うのか？

殺し屋と殺人鬼は違うのか？

仕事だから哀れんでいいのか？

好きだから喜んでいいのか？

殺人鬼にはその違いが分かりませんでした。
だから、殺人鬼は殺し屋に言ったのです。

「その涙は悲しいからじゃない。寂しいから」と。

殺し屋には意味が分かりませんでした。

だけど、それに続けて言った言葉で分かったのです。

「殺す事で君の周りの人が消えるから悲しい。だから、僕と一緒になればいい」と。

その一言に殺し屋は泣いてしまいました。

今まで、彼にそんな言葉を掛けた人がいたのでしょうか？

いいえ、いません。

今まで、殺し屋を気遣って死んだ者はいたのでしょうか？

いいえ、いません。

今まで、殺し屋は 自分の為に泣いた人がいるのでしょうか？

はい、います。

ここに、一人。

殺人鬼が。

「僕も長い間、寂しかった」と。

言いながら殺人鬼はぼろぼろ泣き始めたのです。

そして、

一言、言ったのです。

「だから、一緒になろう」

(後書き)

殺人鬼と殺し屋は結果的違うと思う。
自分だけ？ w w

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5879p/>

殺人鬼と殺し屋

2010年12月31日02時59分発行